

研修名	保護者支援・子育て支援 保護者に対する相談援助
	平成30年1月12日(金) 13:30~16:00
講演・演習	「保育相談支援～地域の活用～」
講師	桜花学園大学 教授 小嶋 玲子氏

1 講演要旨

1) 「保育相談支援～地域の活用」

①地域の子育て支援

保育所が行う地域における子育て支援の役割が重要になっている ※保育所保育指針より

・地域子育て支援拠点事業のメリット

*親子の関係性が見える。

*現場にいる職種の強み

*目の前で問題が起きる [関わることができる→何かを共有する関係。
[相手との関係やこちらの持つ権限は問われない。

*問題の共有がなくても活動を共有することで、援助的な働きかけができる。

どこで介入するのかタイミングがとても大切になる。

・継続来所のためには

*親のメリット…スタッフによる親子双方への丁寧なサポート

*子のメリット…子どもに仲間体験を与えられた満足感

※支援者は、親が支援者に対して自分のことを支持してくれる温かい眼差しを向けてくれる存在であると感じることができるようにする。親から支援者に対する陽性転移

②保護者との関係づくり

・まずは挨拶から話を広げていく。

・アクノレッジメント「認める」「認証」で関係づくりを！

・観察したことをそのまま伝える。成果や成長、変化を伝える。

・Iメッセージ：私が主語のメッセージ YOUメッセージ：あなたが主語のメッセージ

・Reframe (リフレイム 言い換え)

・傾聴 支援の現場で聴くことが協調される理由

*大切にされる場

「きく」を区別すること

*感情、気持ちの発散

*自分の考えや思いの整理 (話す・放す・離す)

*情報、助言を得る

*聞く	hear	一般的なきく
*聴く	listen	身を入れてきく
*訊く	ask	尋ねる

※質問形で会話が行われても答えを求めているとは限らない。

「沈黙をきく」という会話もある。

2 感想

地域の子育て支援、地域資源、関係機関との連携などグループワークをすることで自分の住んでいる地域、園の強みや、また弱い点などがよく分かりました。グループワークで得た意見を参考にしながら今回、課題と考えた自園の子育て支援について考えていきたいと思えます。

また、保護者との日常会話の中でアクノレッジメントやリフレイムを上手く使いながら有効な関係を築いていこうと思えます。

(記録 府中子ども園 吉岡明日香)

研修名	保護者支援 子育て支援 平成 30 年 1 月 12 日 (金) 13:30~16:00
講演・演習	「保育相談支援～地域資源の活用～」
講師	桜花学園大学 教授 小嶋 玲子 氏

1. 平成 29 年告示 保育所保育指針 第 4 章「子育て支援」について

保護者と連携して「子どもの育ち」を支えるという視点を持って、「子どもの育ち」を保護者とともに喜び合うことを重視するとともに、保育所が行う地域における子育て支援の役割が重要になっていることから、平成 20 年告示第 6 章「保護者に対する支援」の章を「子育て支援」と改め、記載内容を充実する。

2. 地域子育て支援拠点事業（子育てひろば）について

対象者 未就園児親子・不特定多数・不定期来所・心理社会的に健康度の高い家庭の親子～心配な家庭・要支援家庭まで

メリット ・親子の関係性が見える。そこに介入できる。
 ・目の前で問題が起きた時に関わることができる。
 ・問題意識の共有がなくても活動や場面を共有することで、援助的な働きかけができる。(どこで介入するかはタイミングが大切)

継続来所のためには

○親にとってのメリット⇒スタッフによる親子双方への丁寧なサポート

- ・居心地の良さと育児に関する学び
- ・育児の楽しさへの開眼

○子どもにとってのメリット⇒子どもに仲間体験を与えられた満足感

※支援者は、親が支援者に対して、自分の事を支持してくれる温かい眼差しを向けてくれる存在であると感じることができるようにする。

◎陽性転移 (好意・信頼・感謝・尊敬) ⇔ ×陰性転移 (敵意・不信・恨み)

3. 保護者との関係づくり・・・まずは挨拶から

① アクノレジメント : 相手の存在を認め、さらに相手に現れている変化、ちがひ、成長、成果に気づき、それを言語化して相手に伝えること。

② I(愛) メッセージ : 私が主語のメッセージ (願い・気持ち) にする

↓

You メッセージ : あなたが主語のメッセージ (命令・評価・指示)

③ ^{リフレイム} **Refreme** : フレイムをかけ直して違う一面から見てみる・見方を変える

- ・ 言い換える (ポジティブに)
- ・ 全否定を部分否定に
- ・ 言葉の順序の入れ替え
- ・ 文句を願いに变える

マイナスに見えていても、
見方によってはプラスに
見えることも。

④ **傾聴** : 支援の現場では「聴く」ことが強調 会話の割合「保護者 8 : 支援者 2」

- ・ 大切にされる場・・・支援者が大変な状況な時は自己評価が低くなっている
ので丁寧に気持ちを受けとめる。
- ・ 感情・気持ちの発散・・・心の内にある不安やイライラを言葉にして表現す
ると、苦悩が解消され、安堵感や安心を得られる。
- ・ 自分の考えや思いの整理・・・話すことで、自分の考えや思いを明確にでき
たり、解決策を思いついたりできる。
- ・ 情報・助言を得る・・・相手からの情報や知識、意見を得て、今までとは異
なった見方、考え方のヒントを得られる。

4. 関係機関との連携・地域資源の活用

一機関、一個人では達成できない重要な目的を何人かの人々が互いに協力して実現する。

連携する上で必要なこと

1. コミュニケーション : 互いに意思を伝達できる関係である。
2. 共通目的 : 連携することの共通目的を共有していること。
3. 貢献意欲 : それらの人々が自分自身の行為で共通目的のために貢献しようとする意欲を持っていること。

5. ワールドカフェ

少人数のグループで、それぞれの職場で実践している専門機関及び関係機関との連携、地域資源の活用について話し合い交流する。

※ 「田の字ワークシート」を利用する (①～④に記入していく)

①	④	① 現在順調にできていること・・・具体的に自覚化できる
		② 課題となっていること・・・うまくいかないことを整理できる
②	③	③ 改善方法・・・周囲と相談し、アドバイスがもらえる
		④ 改善結果・・・できそうなことを実践し、自己評価する

<感想> ワールドカフェでは他市町村の園の話聞くことができ参考になった。
保護者支援における面接技法を身につけ、現場で活かせるよう努めたい。

(記録 京田辺市 河原保育所 千本 芳子)